

健康と温泉フォーラム第125回月例研究会 講演

関金温泉の再生計画の現状と課題

～地域資源の再生による、
持続可能な観光地づくり～

鳥取県倉吉市 副市長 加藤 礼二

倉吉市の概要

面積 **272.06** km² 人口 **43,663**人（令和6年12月末時点）

- アクセス

- ・ 東京から

羽田空港⇒鳥取砂丘コナン空港（1日5往復）

羽田空港⇒米子鬼太郎空港（1日6往復）

新幹線⇒特急スーパーはくと（約5時間半）

- ・ 大阪から

新大阪駅⇒倉吉駅（特急スーパーはくと）（約3時間）

中国道吹田IC⇒米子道湯原IC⇒国道313号（約3時間）

- 山陰の小京都 倉吉

鳥取県の中央部に位置する倉吉市は、歴史的なまち並みや風光明媚な自然環境が楽しめる。

倉吉の地名の由来は"暮らしよし"とも言われており、自然と住みやすさのバランスが保たれた、山陰の中核都市。隣町の関金町と平成17年3月に市町村合併。



倉吉市の特徴 重要伝統的建造物群保存地区

- 白壁土蔵群

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている打吹玉川地区（通称白壁土蔵群）をはじめ、江戸時代末期から昭和初期に建てられた家屋や土蔵が多く残り、そのまち並みは、往時の面影を残す懐かしい佇まいをみせている。

- 打吹玉川地区の玉川に架けられた石橋や、赤瓦の壁に白い漆喰で塗った土蔵群。
- ここでは、風情のあるまち並み、江戸時代から伝わる倉吉の伝統工芸「倉吉緋（かすり）」や、張子の人形「はこた人形」等の見学や体験もできる。



倉吉市の特徴 重要伝統的建造物群保存地区

- 平成3年公開の「男はつらいよ」の第44作目「寅次郎の告白」のロケ地に
- 「孤独のグルメ」で有名な谷口ジロー先生の有名な漫画「遙かな町へ」の舞台でもある。
- この漫画「遙かな町へ」は、来年秋に実写映画が公開される。
今年の8月・9月、実際にロケが行われた。



倉吉市の特徴 日本一美しい廃線跡

- 旧国鉄倉吉線廃線跡

昭和60年3月末で廃止された旧国鉄倉吉線は、廃止後40年以上経った現在も一部レールやホームが残っている。

関金地区の泰久寺駅跡から山守トンネル入口付近まで竹林が広がり、美しい風景が話題。



倉吉市の特徴 日本一美しい廃線跡

- 廃線跡トレッキングのような自然を生かしたアクティビティが人気
- トレッキングイベントや山守トンネルを活用したライトアップイベントなど、廃線跡を活用した観光誘客を展開。



倉吉市の特徴 白金の湯 関金温泉

- 市南部に位置し、市内唯一の温泉、年間2万5千人の観光客が訪れる。
- 無色透明・無味無臭で「白金の湯」と呼ばれる。
- 泉質は弱放射能泉、山陰屈指の古湯。
- 岡山県真庭市と倉吉市を結んでいた作州街道（現国道313号）の宿場町として栄えた。
- 仏教僧の行基（ぎょうき）が発見、弘法大師が再興したと伝えられ、平成29年には開湯1300年を迎えた。



倉吉市の特徴 白金の湯 関金温泉

- 関金地区の温泉街には、無料で体験できる足湯の「延命茶屋」や共同温泉の「関の湯」、日帰り温泉「せきがね湯命館」等があり、ラジウム温泉を気軽に満喫できる。
- 最盛期には、約10軒の旅館が軒を連ねた。
- 昭和45年に国民保養温泉地に選定。
- 平成23年には日本の名湯百選に選ばれた。



関金温泉の特徴 湯中運動

- 温泉に浸かりながら行う水中運動
- 関節や筋肉への負担が少なく、高齢者に優しい健康法
- 九州から第一人者の古賀真澄先生を招き体験会を開催
- 現在では、日帰り温泉施設「せきがね湯命館」の開館前の時間を使って、地域の健康づくりとして継続中
- 温泉を単なる観光資源ではなく、地域住民の健康と幸福を支える場として活用する「新・湯治スタイル」



膝・腰シャキッと
湯中運動体験会
I N 関金温泉

12月5日(火) 午前・午後

参加料：参加料 500 円 + 入浴料 (入浴回数券 1 枚)
温泉に浸かりながら、手足を交互に動かしたり通りにストレッチ体験を行います。筋肉と関節のバランスが整い、慢性の肩・膝・ヒザ・股関節の痛みがある人に適した運動です。お気軽にご参加ください。

※初参加者：体験希望の方は事前に参加申し込みが必要です。
※要予約・キャンセル料ありの方はご参加ください。

★午前の部「せきがね湯命館」
8:30～8:50 血圧測定・健康チェック
8:50～9:00 説明・履替え
9:00～9:40 湯中運動体験
10:00～11:00 湯上り休憩

★午後の部「グリーンズコーレせきがね」
13:00～13:20 血圧測定・健康チェック
13:50～14:00 説明・履替え
14:00～14:40 湯中運動体験
15:00～16:00 湯上り休憩

※見学のみの方は、参加料 500 円のみお支払いください。入浴料は、湯冷費 800 円 (市民の方は 500 円) グリーンズコーレ 400 円です。

湯中運動の第一人者「古賀真澄先生」を九州よりお招きして、体験会を開催いたします。

参加希望の方はこちら♪
湯命館 (湯中運動事業事務局) まで
電話 0858-45-2000

【留意事項】
※当日血圧測定で、160 以上、100 以下の方はご入浴をお断りいただきますのでご了承ください。
※高齢者、めまい、悪い身体の痛みなど体験がすぐれない場合は、無理をせずお休みいただくか、見学のみでご参加ください。
※健康チェックで健康状態、身体の状態でご参加いただけない場合もございます。予めご了承ください。

関金温泉の課題 宿泊機能の低下

- 入湯客数が平成15年の204,742人をピークに減少。
令和元年には123,676人へ
- 平成20年代には旅館2軒、公共の宿泊施設「国民宿舎グリーンスコーレせきがね」と「簡易宿泊施設湯楽里（ゆらり）」2軒に。
- 平成29年に国民宿舎を民間譲渡。魅力向上を期待されたが、コロナ禍により令和2年に廃業。入浴客数も10万人を下回った。
- 宿泊施設の閉鎖により大人数の滞在や合宿誘致が困難に。



関金温泉の課題 日帰り入浴機能の低下

- 日帰り温泉施設「せきがね湯命館」は年間約10万人の利用がある人気の施設
- 県内の競合施設の建設が進み、競争が激化
- 近年は経営は赤字傾向
- 建設から30年経ち、施設も老朽化、早急な対策が求められている。



関金温泉の課題 人口減と過疎化

- 地域人口減少が深刻。合併時から25%減

平成17年4月 4,270人 → 令和3年4月 3,206人

※国勢調査

- 温泉街の活気を支える、
地域の活力が失われている。
- 令和3年には過疎地域指定に



関金温泉の課題 地域資源

- ・ 名物の消滅

商店や飲食店が閉店。

かつての名物やお土産物も消滅

- ・ 経済活動の縮小
- ・ 競争力の低下



関金温泉の課題 競合観光地

- 隣町の三朝温泉の温泉街が有名で訪問者が多い。
- 隣接する岡山県真庭市蒜山（ひるぜん）のリゾートコンテンツが魅力的で、観光客がそちらに向かう傾向が強い。



関金温泉の課題の整理

- 宿泊機能の喪失
- 日帰り入浴機能の低下
- 人口減少と過疎化
- 地域資源
- 競合観光地



課題に対する対策

- グリーンスコーレせきがね再生
宿泊機能拡充のため公設民営施設を建設
- せきがね湯命館の改修
日帰り温泉機能の魅力向上のため、
せきがね湯命館を改修（検討中）
- 関金温泉コンシェルジュ事業
地域資源の掘り起こしと磨き上げ、新たな観光
コンテンツ造成
（推進中）



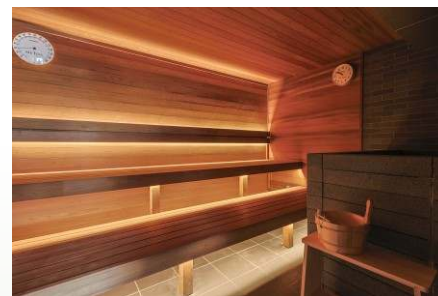
旧倉吉市国民宿舎グリーンスコーレせきがね再生プラン

- 令和3年に廃業した大型宿泊施設「旧国民宿舎グリーンスコーレせきがね」を再生。
- 新しい温泉宿泊施設としてのコンセプトを地元住民、有識者と話し合い、公設民営により令和6年度にかけて設計・建設。
- 令和7年4月に「**HOTEL**星取テラスせきがね」としてリニューアル。観光客の受け皿として新たな拠点施設とした。



再生プランの概要

- 中核施設としての重要性、地域資源の再認識
- 運営形態の整理
- イニシャルコスト・収支モデルの精査
- コンサルタントなど有識者のアドバイス



HOTEL 星取テラスせきがね

- 「星ふるまちのやさしい宿」をコンセプトに、インクルーシブな施設を目指した。
- ユニバーサルデザインの導入
- 3世代旅行に対応
- ペット同伴可能



せきがね湯命館の改修

- 施設の課題

- 施設老朽化による利用者満足度の低下
- 高齢者に使いにくい構造
- 湯中運動団体の活動拠点としての使い勝手の悪さ
- 設備効率が悪く、光熱水費が経営を圧迫。これによる慢性的な赤字傾向
- 隣接する老朽化したホール設備の維持管理コスト



せきがね湯命館改修への取組

- 令和5年度に利用者アンケート実施・改修方針を検討
- 令和6年度から改修基本構想に着手
- 令和7年度には、
関金温泉ポテンシャル
調査を実施。
地域の付加価値を模索。



せきがね湯命館改修のポイント

- 地理的要件、競合施設との差別化
温泉だけでなく、付加価値の創造
例えば、健康、食、体験など
- 持続可能性の配慮。例えば、設備
の効率化、地域資源の活用など
- 成果の設定と評価方法



関金温泉コンシェルジュ事業

- 地域資源の掘り起こしと磨き上げ、新たな観光コンテンツ造成するソフト事業
- 住民、関係団体、企業との協力
- モニターツアーには多数の応募
- これにより、地域を挙げて関金温泉の賑わい創出を実現させる。



最後に

地域資源の再生による、
持続可能な観光地づくりへの挑戦